

□議員名：伊藤 實

1 新病院の財政、収支計画について

論点	25年3月議会では約3億5,000万円の一時借入をしたがその後の状況は。
回答	今後の病院経営に大きな影響を与える要因として、消費税増税と公営企業の新会計基準の改正が考えられる。新病院開院10年後、計画については、平成36年度まで策定しているが、36年度の内部留保資金が増税を想定しない場合は12億3,000万、消費税増税を想定した場合に5億9,000万円程度と、半減する見通しである。これまで策定した収支計画は、それらが反映されていないので、反映させた収支計画を現在策定中であり、平成26年度予算案上程時までは新たな収支計画を示す。

論点	人件費について、医師、看護師等の人件費について変更はないのか。
回答	今、計画しているのが、医師30名、医療技術職38名。退職については3年で15%程度減額になり、減額要素と考えている。

論点	昨年、看護師が同時期に11名退職されたが、勤務体制等何らかの原因があったのではないか。また、医師についても昨年は、県内最低の報酬700万での募集状況から現在では、5年目の医師で1,100万、10年目の医師で1,500万に、免許取得後15年の年棒は1,600万、20年の標準が1,800万と相当増額をしている。そうすると、当然人件費比率も増加し収支計画が変わっているのではないか。
回答	特に、理由については、個々の事情については把握をしていないが、特に何かあってというふうなことは聞いていない。

論点	医師、看護師の数でも、現在より少なくてもできる病院の形態をもう一度検討するのは今しかないと思うがどうか。
回答	医師も看護師も、急性期を担うところが非常に苦戦しているのは事実であるので、そういうことも踏まえて、今後よく検討していく。